

---

# シュンとなつみの物語 バーチャルな恋 実話 完結編

りこりすの華

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

シユンとなつみの物語 バイチャルな恋 実話 完結編

### 【Nコード】

N2372D

### 【作者名】

りこりすの華

### 【あらすじ】

パソコンを通じて知り合った2人の大学生。出会ったタイミングは2人とも心に傷を負った状態だった。意気投合し、恋に発展…しかし…。この実話の物語、あなたは信じられますか？

## （前書き）

シユンとなつみの物語、バーチャルな恋、実話。バーチャルな恋、その後、なつみの慟哭。バーチャルな恋、なつみの lingering（未練）。バーチャルな恋、なつみの胸キュン。に続く完結編です。

ー今までのあらすじー

シュンとなつみはパソコンのゲームで知り合い、意気投合。シュンは愛する彼女と

別れたばかり、なつみは、彼に裏切られた形で別れる寸前。そんな時に偶然

出会った2人。2007年、夏のことだった。出会ってから毎日の様にメール、

チャット、2人は恋におちていった。なつみは20歳、シュンは21歳、お互い

大学生、なつみは大阪、シュンは東京、離れていても2人は傷ついた心を慰め合った

もちろんパソコンを通じて……。なつみが旅行先の小浜の空で星を数え、シュンは

東京の空の星を数え、同じ星を見ているね。と言ったつけ。シュンが教えてくれた

1970年代の名曲、22才の別れ。そして偶然公開された「22才の別れ」の曲

をモチーフにした映画、シュンは東京で、なつみは大阪で同じ日に観に行ったね。

2人とも号泣したよね。 シュンはなつみより1つ上なだけなのにとっても大人の

考えを持つてたね。 お互い会わないと約束しちゃったね。 シュンは元カノへの想い

が大きすぎ、そこに現れたなつみ。 シュンにはそんなに背負いきれない・・・今の

シュンは人を愛する資格がないんだ。 だからなつみには、シュンよりももっといい人

を見つけて幸せになってほしいと言ってたね。 なつみは泣いたよ。 だってシュンが

好き、大好きだもん。 いまのなつみにそんなの無理だよ。 なつみはどんどんシュンが

好きになっていくの。 会わない約束するんじゃないかった。 シュンに会いたい、今すぐ

会いたい、会って抱きついてキスしたい……。 でももう遅いんだよね、シュンは

意志が強くて筋が通った性格。 今さら約束撤回なんてしてくれないの分かってる。 そんな

シュンの性格もなつみは大好きだったよ。 なつみの片思いだったかもしれないけれど

なつみはシュンに出会えて本当によかった。涙が溢れるくらいよかった。

2人はどれだけチャットをしただろう、どれだけメールをしただろう、メールで

いつも素敵な詩を書いてきてくれたね。なつみを気遣って。嬉しかったよ。癒されたよ。

ほんとに優しいシュン、あなたを想ってどれだけ泣いたか……。なつみは写メを送り

優しいシュンも送ってくれた。シュン、なつみの思い通り素敵な顔立ちだったよ。なつみは

プリントアウトして宝物にしたんだよ。シュン、シュン、シュン、大好きよ。

本文―

それから月日が経ち、大学も始まり、忙しい毎日だった。学校に、レポート提出、

バイトに、遊び・・・もちろん時々送られてくるシュンからのメール嬉しくて

嬉しくてメール、開くのドキドキしたよ。大好きなシュン、愛しのシュン、メールが

来てたら深呼吸して、開いてたっけ。何度も何度も読み返し、涙を流し返信したな。

学校の行き帰りも独りになってシュンを想うとたまらなくなって涙が溢れ、人前構わず

泣いたんだ。シュンに会いたい、会いたい、会って抱きしめてほしい、何度そう思った

ことか。優しいシュン、そんななつみを氣遣ってメール続けてくれたね。ありがとう。

シュン、あなたは本当に素敵な人、想えば想うほどなつみを辛くさせて、罪なやつ。

でもねなつみは、人をこんなに愛することは初めてだったな。シュンも辛いのがなつみを

氣遣ってメールくれた。励ましてくれた。そして我儘ななつみはシュンを困らせてばかり

だったね。でも、ごめんね、シュン。なつみは、とても大事なことをシュンに隠してたんだ。

これは家族と学校の先生にしか言っていない、親友にも隠してたこと。  
なつみはね、血液の

癌、白血病だったんだ。発症したのは、高2の7月。体がすごくだるい、口内炎が治らない

疲れやすい、鼻血がやすい、近くの大学病院で血液検査して、脾臓がはれてる、そう、

白血病だと宣告された。緊急入院して数か月の辛い治療で、ほんとに辛かったけれど頑張

ってなんとか退院できたんだ。骨髄移植だって家族は白血球の型が合わず、ドナーも

なかなか見つからない、それでも外来で定期的に検査して薬も飲んで、高2で遅れた勉強も

頑張って大学合格。人一倍嬉しかった。なつみは恋をしたら一途だから初恋の人をずっと

想ってて、恋がなかなかできなかった。初めて付き合った彼に裏切られ、傷心のところに

現れたシュン、話せば話すほどなつみはシュンを好きになったよ。純粋なシュン、優しい

シュン、時には怒ってくれたシュン、頑固だけど軟派なところもあるシュン、大人のシュン、



素敵なシュン。なつみはね、シュンの元カノへの想いには勝てないと分っていないながら、

シュンは俺を好きにならないでくれ、と言われてたけど、好きで好きでどうしようもなく

毎日毎日シュンが教えてくれた22才の別れ聴いて泣いてたよ。そして10月1日、いつもの

様に外来受診、血液検査の結果に先生の顔の表情が少し曇った。「2週間後、お父さんと一緒

に受診するように」と言われたんだ。なつみはピンときたよ、再発したんだ、と。2週間後に

受診、骨髄穿刺という検査、お父さんだけ呼ばれて主治医の先生と話をした。お父さんは

多くを語ってくれなかった。教えてくれたのは、また入院して辛い治療をしなければいけない

事。なつみはね、もうわかつちゃった。発症して3年で再発。急性骨髄性白血病。親友にも

隠してる。でも、愛するシュンに伝えたかった。なつみはもう永くないかもしれないって。

シュンは驚いて時には怒り、時には優しく励ましてくれたね。毎日星空にわたしの病気が治る

様にお祈りをしてくれたね。メールの回数も増やしてくれたね。嬉しかった。号泣したよ。

大好きなシュン、なつみは片想いだったけれど、なつみのことシュンに忘れてほしくなくて

入院までの間にシュンへの贈り物を作ったんだ。なつみのお気に入りCD3枚。思い出の小浜

で拾った貝殻を入れた入れ物にメッセージをそえて……。そしていよいよ11月17日に

入院が決まった。ひそかに買ったノートに毎日シュンへ日記を書き始めた。そしてシュンに

メール、「11月17日に入院が決まったよ、なつみ絶対治療に耐えて頑張るから、シュン、

シュンの声が聞きたいよ。毎日それを聴いて頑張るから、シュン、声を録音して送って下さい

」でもシュンの考えは違った、入院の5日前、「速達で送るよ。さつきが頑張れるように・・

・でも残念ながらシュンの声ではありません。ただのお守りさ」ちよつとがっかりしたけれど

シュンからの贈り物だったらなつみはなんでも宝物にするよ。そして次の日学校から急いで

帰ると、ニヤニヤしたお母さん。届いたよ。はい、これ。見ると、小さな白い封筒、男の人

とは思えないきれいな字でなつみの住所と名前が書かれていた。差出人のところには、シュン

とだけ書かれていて住所は空欄だった。でも消印が大崎となっていた。てことは？なつみ、PC

で調べちゃった。品川区の大崎郵便局から送ったんだって。ふつくら膨らんだ白い封筒、お守

りって言ってたよね。大事に切り取り開けてみると、ん？ずいぶん小さなお守り。しかも何も

書いてなく、巾着袋みたいになってる。あ、分かった、5円玉のお守り？中を見ると、え・・

？指輪：銀色で、真中にダイヤ？分かんないけど石がついててデザインもセンスのいいシンプ

ルなもの。早速はめてみた、左の中指に一番ぴったり。嬉しかったよ。手紙も添えてあった、

「なつみ、こんにちは　しばらくシュンのメール読めないね　メールの代わりに　指輪を贈る

ね　なつみのそばに　いつも居るさ　幻のシュンだけど　淋しくないだろう。だからガンバロ

ウー！ 応援してる なつみ ひとりじゃないよ……。 シュン」

と溢れ 泣きじゃくったよ。ありがとう、シュン優しいシュン、やつぱりなつみはシュンが

好き。指輪をつけながら撫でながらなつみは思った。この指輪をして今回の入院乗り切るよ。

絶対退院して、一番にシュンに報告するね。それから日記を書き続けた、もちろん指輪の

お礼も書いて、でも、シュン、シュンの住所がわかんないよ、シュンへの贈り物のCDと思い出

の貝殻 この日記、シュンに送りたいのに送れないよ。確かにシュンはお返しはいらないと

言ってたけれど、なつみはどうしても渡したいんだ。

いよいよ入院の日が来た。もう2回目だから慣れてる。個室に入れてよかったよ。だつてなつ

みの親類はおしゃべりな人が多いから、お見舞いに来てくれるのは嬉しいけれど、同室の患者

さんに迷惑かけちゃう。お母さんと一緒に荷物の整理、なつみのお気に入りのは最小限に

して持ってきた。それらを飾って、もちろん、シュンからのお守りは左手の中指に光ってる。

シュンの書いたきれいな字の封筒と手紙、そしてシュンの写真。いつでも見られるように枕元

に置いたんだ。そして血液検査から骨髄検査、辛い検査もそうでないのも一通りやった。鎖骨

下静脈に管をいれて24時間点滴するの。だからトイレ行くのも何処へいくのも点滴棒持って

行くから大変なんだ。お昼にお母さんが帰って行った。個室に独り。窓からは青空が見える。

てことは、夜には星空見えるよね。なつみは空が大好きだから、特に夜空の星と月は大好きだ

からよかった。毎日早く退院できますようにお祈りしちゃう。早速その日の夕方から抗がん剤

の点滴開始。副作用出るかもしれないけどがんばろうね。と、なつみの主治医は他にもいる

けど主にこの女医さんがついてくれた。なつみは持ってきた本を読んだり、i podで音楽聴い

たりして大半を過ごした。親友にも隠してるこの病气。だから友達はお見舞いに来ない。来る

のは、おしゃべりな親戚と家族くらいかな。同じ病気の1つ上の子とも友達になれて話し相手

ができた。そうこうしているうちに日が経ち、気持では負けなかったつもりが抗がん剤の副作用

作用で、吐き気が出てきて御飯が食べられなくなっていった。負けない、負けない、絶対負け

ない。悔しくて涙が出る。でもがんばるよ。シュンと約束したんだもん。12月には退院する

って。だからなつみは頑張るんだ……。でも……。入院から5日目だったか？思いの外、抗

癌剤が効きすぎてか、白血球が下がりすぎ、抗生物質の注射が増え、とうとうクリーンルーム

になってしまった。お母さんにPCのIDとパスワードを教え、携帯も渡してシュンとなつみの伝

言役になってもらった。先生の指示通り、うがいは欠かさず、食事もできるだけ食べ、頑張っ

たのに……。23日位から熱が出てきてしまった。寒い……。部屋からの外出もちろん禁止

熱はどんどん上がり始め、ナースや先生が入れ替わり立ち替わり入ってきて、一生懸命治療し

てくれた。注射の量も増えていき、独りになると夜になると不安になって・・・星空にベッド

からお祈りしてた。自然と涙が溢れ、負けない・・・負けないって思ってた。お母さんが見

舞いで教えてくれた、シュンから珍しく携帯にメールが来たよって。「なつみ！元気？クリー

ンルームで治療？辛いだろうけどもうすぐさ！PC壊れちゃって、メールできなくてごめん！友

達のPC借りたけど、明朝、10時に返さないといけない。なつみ、シュンが応援してるから、

なつみも辛いだろうけど乗り切ろうね。今日も星に祈りをしたよ。」なつみがあまりに泣くも

のだからお母さんまで一緒に泣いてシュンがくれた指輪を握りしめ、2人で頑張ろうって号泣

したんだ。でも・・・熱は下がらず39度、40度、どんどん上がり、息も苦しくなってきた

最後のちからを振り絞り、シュンに日記は書きたい、そう思って震える手を押さえながら一生

懸命書いたんだ。それからなつみは意識がもうろうとしてきた・・・。  
。24日のことだった。

なつみ・・・11月27日22時05分・・・逝去。

そうです。私は、なつみの母親です。なつみがまだ元気に会話していた頃、なつみにもしもの

事があつたら「シユンとなつみの物語、完結編を書いてほしい」と頼まりました。私となつみ

は親子というより姉妹の様な関係で何でも話してくれていたなつみ、もちろんこの物語を投稿

していることも知っていました。だから今約束を果たすべく、涙を流しながら、これを書いて

います。なつみはシユン君のこともよく聞かせてくれ、大好きなシユン・・・と言っていつも

はにかみながらも目がキラキラと輝いていました。私はそれを聞きながら自分のことの様に、

時に、なつみと笑い、時に、一緒に涙を流していました。なつみはシユン君を心から愛してい

ました。私にはそれが痛いほど伝わってきました。でも親としてど



うしてやることもできず・

・こうして最後のなつみの頼みを叶えてやっています。物語には続きがあります。

11月26日、そう、なつみが旅立つ前の日、シュン君からのメール「なつみ！こんにちは！

なつみが入院してからずっといいお天気が続いています。ちょっと寒いけど快晴！クリーン

ルームだと気候がわからないだろう。秋から急に冬が来た感じ・・・。  
。治療の薬とか点滴とか

で辛いんだろうね。副作用で食欲もないんだろう・・・。身体もだるかったり、熱とかあるん

じゃない・・・でも、しばらくの辛抱だからね、乗り切ろうね。

私は一本のろうそくになりたい  
みしいネ  
ひとりぼっちってさ

もしいつか、あなたの心が  
かなしいネ  
ひとりぼっちって

真っ暗になったとき  
てほんとにつらいよネ

ひとりぼっち

あなたのかたすみで  
うちですごく自由だよ

でもひとりぼ

オレンジいろの  
なつかしい匂いがして

それになんだか

あかりをにかけて  
あつくなるんだー

時々ココロが

たっていたい

いつでもいつでも

私はあなたのことを

想っています

「小さな恋

のものがたりより」

月ももうすぐ満月になるよ。 けっこう明るいんだ。 びっくりするくら  
い。 同じ星を見てるかな

? 早くクリンルーム出れると良いね。 じゃ、またね  
シュン」

そのころなつみは意識がもうろうとしてるなか、 家族全員に両手を  
握られて、こう言いました

うわ言のようでしたが・・・「みんなごめんね、ありがとう・・・」  
お母さん、シュンにCDと小

浜の貝殻、机の上にあるから・・・渡して「これがあの子の最期の言葉  
となりました。それから丸

1日あの子は生きようと、生きようと頑張りました・・・でも最期、主  
治医の女医さんが泣きなが

らしてくれた心臓マッサージの甲斐もなく、私達のもとから旅立っ  
て行ってしまいました。な

つみは明るく、いつも笑顔を絶やさず、みんなに愛され友達も多い、  
やんちゃで危なっかしい

ところがあつたけれど、私達にとって生き甲斐でした。可愛いお嫁  
さん姿、いや目前に控えた

成人式の晴れ姿さえ見せてくれることなく、去って行ってしまいま  
した。そうだ・・・シュン君に

報告しないと思い、哀しいお知らせをしました。そしてなつみが  
シュン君に渡してほしいと

言っていたことも。なつみの荷物を整理していたら出てきました枕  
の下からシュン君にあてた

日記・・・これは何が何でも渡してやろう、そう決意した私は12月2  
日になつみが言っていた。

シユンは品川区の大崎駅の近くに住んでる、PCで調べ、待ち合わせ場所を決め待ってます。と

メールしました。シユン君の返事はこうでした「お母様、え、どうして…？本当なの…？あんなに元気だったじゃない。ウソだろう。信じられない…。申し訳ご

ざいません 言葉が見つか

りません 謹んでご冥福を申し上げます。 なつみ！本当にさよならなんだね。 なつみ！あり

がとう。夏に出会って以来メール以上にチャットでいろいろ話したね。楽しかった。1日に2

時間も3時間も…。 なつみはおしゃべりで…。3か月あまりの付き合いなのにケンカしたり、泣

いたり、喜んだり、お互い本音で話せて幸せだった。 なつみのことは忘れないよ。 なつみは、

シユンの頑固で信念を貫くところが好きだと言ってくれました。一度言った事は変えないこと

承知しています。 なつみは世話好きで最後まで自分を想ってくれたのだろう。自分が元気にな

って欲しいと…。最後のメッセージ（手紙）渡しそびれたプレゼント…。そんななつみの気持ちく

らい俺にはわかるさ…。お母様、なつみの最後の言葉には続きがあります。渡して…でも

シユンは受け取らないよ。あいつは頑固者だから！だから…いいよ。シユンの思い通りにして

欲しいと…。お母様、もう許して下さい。幻のシユンで終わらなければあまりにも後悔が多す

ぎます。なつみにも自分の意志を伝えておきます。もう背負うことができない…。自分の中に

はなつみが永遠にいます。シユン、なにしてるの？元氣出して！シユン、早く彼女見つけて！

シユン、幸せになってね！シユン…いつも話しかけてくれます。なつみは空になって見守って

くれてるんです。お母様、ですから12/2は東京に来ないで下さい。自分は行きません。意志

は変わりません（中略）なつみ、自分は最後のお別れにも行けずごめんなさい。東京でひとりで

なつみを送ります。シユンはなつみの望み通り、立ち直って幸せになります。なつみ！シユン

を好きになってくれてありがとう。俺はなつみに会いたかった。好きだった。愛してたんだ。

そして、さようなら…メールアドレスも閉じます。もう連絡が取れなくなりますがお母様も御

身体を大切にしてください。自分勝手なこと、許して下さい。さようなら　幻のシュン」

このメールを見て私は驚き、泣き崩れてしまいました。なつみの想いを叶えなければ、なつみ

が一生懸命作った愛するシュン君への贈り物、渡さなければ。幸いシュン君のアドレスが

まだ閉じてなかったので号泣しながら待ち合わせ場所に来てくれることを何度も何度も頼みま

した。なつみの姉も、義理の兄も、そして主人も泣きながら必死にメールで来て下さいと頼み

ました。ところが次の日どうか来ないでくださいとシュン君からメールがありアドレスが閉じ

られてしまいました。私は、何も手に付かず、家族全員で悲しみました。でも母として、たと

えシュン君が来なかったとしても私は行くことに決めたのです。なつみがひそかに綴っていた

病室での日記、可愛い入れ物に入ったメッセージが添えてある、2人の想い出の小浜で拾った

貝殻、CD、やんちゃ娘にまっすぐ向き合ってくれたシュン君へ、私からのプレゼントとして

マフラーを入れ、大切に持って12/2早朝から出掛けて行きました。駅に向かう途中で涙が

とめどもなく溢れ、人もまばらな電車の中でひとり涙をぬぐっていました。4時間ほどで待ち

合わせ場所に到着。時間もぴったり。でもシュン君らしき青年は見当たらず、2時間待つて

現われなかったら諦めようと決め待ち続けました。すると…一人の歳は私くらいか少し上で

しょうか、足早に男性が現れました、そして私に近づき名前を尋ね、私が「はい」と答える

と「シュンとなつみの物語…」とおっしゃいました。分かりました、シュン君のお父様だと…

私が「お父様ですか？」と尋ねると「本人は泣くばかりで何も聞かない約束で受け取るものを

受け取ってきてほしいと頼まれまして」とおっしゃり、私は号泣しながら簡単に説明しシュン

君に渡して下さいとなつみの贈り物を手渡しました。私が大阪から来たことに驚き、そして

「本人に連絡させるようにいたしますから、なつみさんのご冥福をお祈りいたします。」とおつ

しゃって下さり一礼をして行かれました。私は、暫くそこに佇み、涙が止まらず、なつみに渡

せたよと何度もつぶやき、シュン君ありがとうと何度もお礼をし時間も忘れて泣きました。

そこからはどうやって家に着いたか分からないほど嬉しさでなつみの遺影に報告しパソコンを

開いてみるとシュン君からのメールが届いてました。初めはお父様でしょう「本日は遠いところ

ろご足労お掛けしました。事情も知らず、お目にかけてしまった事、お詫びいたします。シュ

ンからは何も聞かず、語らずの約束で、渡されたものを受け取ってほしいと涙をながしながら

申していたので私も何も聞かずに会いしてしまいました。本人もお会いするのが辛かったの

でしょう。察してやって下さい。シュンにはお預かりしたものの渡しましたのでご安心ください

なつみさんのご冥福をお祈りいたします。」「お母様　なつみの日記、CDいただきました



まだ読めませんが気持の整理ができましたらまたメールします。今日は、ありがとうございます

した シュン」 なつみは 世界の中心で愛をさけぶ のドラマ版が大好きでした。ヒロイン

が自分と同じ病気だったからでしょう。DVDを大切にしています。入院中「もしなつみが死ん

だらセカ中みたいにな、シュンとの思い出の小浜の海辺で空に向って散骨してな」と言ってい

ました。私達は、あのドラマの様に小さな小瓶に入れて落ち着いたら散骨してやるつもりです

12/2のメールからしばらくしてシュン君から長いメールが届きました。「お母様！こんにちは

は！先日はわざわざ大阪からおいでいただいたのにお会いする事拒んでしまいました、お母様

の顔を見たら号泣してしまったことでしょう。当日の朝、ご家族からいただいたメールを読み

それでも迷っていました。父は何も聞かず黙って行ってくれました。戻って来たときは、驚い

ていましたが、お預かりしたものを渡してくれました。お母様には失礼なことをしてしまった

言っていました。なつみさんの貴重な宝物頂きました。あ母さん、これは本当のことなのでしょう

うか？自分には何が何だかわかりません。会ったこともないのに、たった3か月のメールや

チャットで話ただけで…現実離れた、ドラマの様な物語…夢でも見ているような…自分は

なつみさんの病気の事も知らず、冷たい態度ばかりで接していました。それなのになつみさん

は一生懸命自分を励ましてくれました。自分はなつみさんを好きになる事を恐れ、離れよう

別れようとばかり考えていました…。それでもなつみさんは自分の病状が悪い事を感じたの

でしょう。私が生きてるうちに…信じられない言葉が書かれています。もちろん自分はそん

なこと信じられない、信じたくないのに、突き放した言葉を言っしまいました。もっと優しく

い言葉を掛けてあげればよかったのに…。本当は気付いていたんだ。自分はなつみさんが好き

な事に…。でも中途半端な自分ではなつみさんに悪いと思ってしまいました。思い出が少ない

方が傷が浅く済むと思い、そっと消えようと考えていた…。必死の想いでシュンを最後の恋と

言ってくれていたのに…。なつみは音楽がすきだったなあ、最後のなつみが作ってくれた3

枚のCD ああ…本当はデートして手をつないでショッピングしたり、映画を観たり…なつみが

作ってくれたお弁当を公園のベンチで2人並んで食べたかったなあ。なつみの好きなコンサー

トだって付き合ってたあげるよ…クリスマスだって、誕生日だってプレゼントあげたいのに…

もっともつとなつみと話したかった、抱きしめたかった…。なつみさんの日記読みました。

検査結果を聞いた翌日から始まり、11月24日まで最後の力のかぎり震える手で綴られて

いました。17日に入院してたの11日で。

「11月24日(土)晴れ、AM7:02 大好きなシュンへシュン、どうも昨日までと体が

違う。息がくるしいヨ。血中の酸素が足りないって。昨日は当直の先生をずいぶんてこずらし

ちゃった。ごめんなさい。酸素マスクしてるヨ。シュン…、私はどうも行かなくちゃいけない

みたい。私はね、空になるよ。晴れの日我真っ青な青空に。曇りの日はフワフワした雲を

両手いっぱい広げた空に。雨の日は地球の草花に栄養を与える水をもたらす大空に。雪の日は

寒さにこえながら真っ白な雪を降らす空に。夜は、星と月がきらめくステキな夜空に。シュ

ン辛い時、困ったとき、どうしようもない時、そんな時は、空を見上げてごらん。いつも私が

見守ってあげるヨ。大好きな家族、友、そしてシュン。私がいつも守ってあげるヨ。シュンが

幸せになれます様に、いや必ず幸せになって下さい。私の分も。シュン、大好きでした。あり

がとう。そして、ごめんなさい。なつみ」最後のページに”22才の別れ”の8/22の映画

のキップの半券が貼ってありました。（中略）なつみ、俺はやっぱり辛くて悲しい。涙が止まら

ないんだ。涙をこらえると声が出て嗚咽になってしまっ…。目を閉じてても涙が溢れてくるん

だ。どうすれば止まるの？なつみが空になってからいつも真つ青な空。なつみ！シユンを見て

笑ってるの？なつみ！なつみ！俺の方こそ謝らないといけないね、ごめんなさい。（中略）

8/12だったね。なつみが家族旅行で小浜の海へ、ひとりホテルに残ってメールしてきたね。

なつみの失恋をいやす旅行だったね。そしてなつみは小浜の星にシユンは東京の夜空に祈った

ね…あの時になつみの想いが分かったんだ…。なつみからもらった貝殻…なんだか懐かしい気

がするよ。なつみが海岸で拾ってくれたんだね、ありがとう。お母さん、小浜にはもう行か

れたのでしょうか。もし、まだでしたら行く日を教えてください。東京から空を見て黙祷を

ささげたいと思います。（中略）なつみさんのことを語ればお母さんの20年には勝てないけれ

どいっぱいの思い出、素敵な出会いだった。運命だなんて一言でかたづけられないけれど

自分は、悲しくて辛くて。明るいなつみがいなくなってしまった。でもなつみが最後まで頑張

つてくれたように自分も頑張ります。辛くても悲しくてもなつみが  
見守ってくれるから平気で

す。なつみの想い一生忘れません。なつみ！なつみの分まで幸せに  
なります。見守って下さい

なつみ！ありがとう。」私はこのシュン君からのメールを読みな  
がら声をあげて泣きました

早速、今にも「おかーさん」って語りかけてきそうななつみの遺影  
にシュン君からのメールの

内容を報告すると、なつみが、一瞬笑ったように見え、「シューン  
ありがと。」と聞こえたよ

気がしました。私は泣き崩れ、「なつみ、よかったね。」と語りか  
けました。なつみは、

天国で幸せ気分ひたっていると思います。シュン君、ありがとう  
ね。私達は、まだなつみの

死を受け入れられなくて、いつものように「ただいまー」と明るく  
リビングに入って来そうで

つついなつみが愛用していたお茶碗とお箸を用意してしまったり。  
なつみの部屋に行くと

なつみが居そうで、いつものように「もう、ノックしてよっ」って  
怒られそうで……。なつみの

部屋は永遠にそのままにしておきます。今となっては形見となってしまうたシュン君からもら

った指輪、手紙、そして大切にしていた セカ中のDVD、沢山のCD、お気に入りだった服、バック

特に料理が得意だったなつみが書いた料理のレシピ、なつみの匂いでいっぱいです。あれから

一日として泣かなかった日はありません。できることなら代わってやりたかった。たった20

年、これからというのに急いで明るく駆け抜けて逝ってしまったなつみ。いつもなつみが私に

言います「お母さん、もうそんなに泣かないで」って。そうですね。私達は、なつみに癒され

続けてきた分、残りの人生をなつみに恥じないよう生きていきます。これは本当に実話です。

シュン君にも承諾を得て、ぜひ書いてほしいと言ってくれたので私は、涙をこらえながら、執

筆しました。なつみも天国で喜んでいることでしょう。読んで下さった皆さん、ありがとうご

ざいました。そして・・・シュン君・・・本当にありがとう・・・。

E  
N  
D



（後書き）

読んで下さりありがとうございました。あの子がいなくなってから  
どれだけの涙を流したことでしょう。この切なくて悲しい物語、泣  
きながら書きました。なつみも喜んでることでしょう。有難うござ  
いました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2372d/>

---

シュンとなつみの物語 バーチャルな恋 実話 完結編

2010年12月29日23時33分発行